

まちづくり ひろしま

第49号 (令和2年9月15日)

読者数：650名 (募集中)

メール：hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp

HP：<https://machizukurihiroshima.web.fc2.com/index.htm>

〒733-0002 広島市西区楠木町1-9-7

発行人：前岡智之、編集人：瀧口信二

配信元：広島アイデアコンペ実行委員会

ご提案・ご意見等は、こちらまで

被爆100年(西暦2045年)の姿をめざして

新型コロナとうまく付き合って乗り越えていこう！



○広島市中央公園を考える⑩
広島中央公園瀧口構想案



○2代目平和の鐘祈念式



○街角ウォッチング
紙屋町まちかどピアノ

目次

- 巻頭言：不要不急好き？…………… ガリバープロダクツ代表 通谷 章
- ひろしまのまちづくりの動き
 - ・旧陸軍被服支廠の保存運動の動き
 - ・第6回 2代目平和の鐘祈念式 (実施報告)
- 広島市中央公園を考える⑩：現状を踏まえた中央公園構想案 建築士 瀧口信二
- ほっとコーナー：歩く街、横川…………… 染織作家 片島 蘭
- 時代を語り建築を語る会報告：語り人 船越聖示 (登山家)
- 人物登場：内藤達郎 (旧陸軍被服支廠の保存を願う懇談会事務局長)
- 街角ウォッチング：紙屋町まちかどピアノ…………… 技術士 片平 靖
- 第27回時代を語り建築を語る会：マイクロ・プラスチック問題を語る
- 編集後記：サッカー場の建設費、9月市議会に提案…………… 編集委員 前岡智之

□ 巻頭言

不要不急好き？

ガリバープロダクツ代表
通谷 章



今年の流行語大賞。新型コロナ、三密、不要不急、これらの言葉のどれかが選ばれることは間違いない。誰しも異論はなかろう。中でも、私は、不要不急が選ばれることを期待している。実に身近。かつ納得できる「四文字」だからである。

不要不急の下、日常生活の色々な動きが制約された。出社回数の削減、買い物回数の減少、人との出会い、街中の徘徊・・・、呼応するように、諸々の会合、イベントなども自粛の号令で次々と中止になった。

当初、思わぬ事態に慌てさせられた。不必要に身構えもした。だが、振り返って大きな不都合はなかった。大して痛痒も感じない。不思議なことである。生き急ぐことはない。人生の大半は、不要不急であることが確認出来たに過ぎない。

思えば、ソーシャル・ディスタンスもそうである。私には目新しい言葉ではない。冷え切った家庭内は、十分な距離が取られ、会話さえ殆どない。ファミリー・ディスタンスである。もともと、引き籠りがちな私は、二十年も前から社会と距離を置いて生きている。先取りである。先見の明がある。

そもそも社会は多くの無駄で成り立っている。至る所に不要不急がはびこっている。ちょっと考えれば、日常生活の殆どが不要不急である。本当に必要なのか、そんなに急がねばならないのか、そんなものばかりが多い。ある意味——仕事だってそう。勉強だって、恋愛だってそう。自分自身の存在だってそうである。

今、この歳になれば慌てて必要とするものはない。今すぐ急がなくとも、さほど困らない。なんで、今まで束縛されていたのかと頭を傾げてしまう。私のこの思い、世界中の大勢が実感したのではなかろうか。

さて、生き方が問い直されている。社会の進歩・科学が、人々の幸せに必ずしも直結しないことは確認されている。スピード社会が、瞬く間にコロナを世界に蔓延させたのが証左の一つ。向上心の名を借りた欲望から、派生する矛盾との整合性が難しい。これまでの未来観・人生観の払拭、新たな旅立ちである。

日本国——資本主義と民主主義の相反する二つの主義で成立している。

経済を念頭に置き過ぎると人命は軽視される。民主主義を尊重すると、経済に目を瞑(つぶ)らねばならない。社会が疲弊し失速しても文句は言えない。正しく盾と矛である。

どちらか一方だけを選択できずに人々は懊悩(おうのう)している。話しが飛躍するが、広島が希求する「平和論」にも一脈通じる。日々の現実と、理想論の狭間の痛みである。

不要不急には、未だ、本質が語られていないように思える。整理が不十分にも思える。不要不急でもたらされた時間を使って、熟考が私たちに突きつけられている。

ひろしまのまちづくりの動き

① 旧陸軍被服支廠の保存運動の動き！

○今年2月に発足した「被服支廠を未来に活かす会」が活動第1弾として7月19日(日)にイベント開催。戦時中の被服支廠の様子を語る切明千恵子さんの証言、峠三吉の詩「倉庫の記録」の朗読、全棟を200分の1の縮尺で再現した木製の貯金箱のお披露目などを行う。

○「旧被服支廠の保全を願う懇談会」は7月24日(金)に講演会と国への保存の働きかけの報告を実施。講演会は出原恵三氏(戦争遺跡保存全国ネットワーク共同代表)が「広島被服支廠倉庫を世界遺産に～戦争遺跡の保存と活用～」と題して、沖縄や高知での戦争遺跡を保存するための市民運動を具体的に紹介。

自民党の被爆者救済と核兵器廃絶推進議員連盟事務局長平口洋氏(広島2区)が登壇し、厚労大臣に被服支廠の保存案を提示したことを報告。

○6月30日より月2回、1時間程度、広島の有志が旧陸軍被服支廠を題材としたラジオ番組「Hihukusyo ラジオ」をインターネット配信している。被服支廠への関心を広げるため、被服支廠の歴史やゆかりのある人たちを紹介。

○上記「Hihukusyo ラジオ」のメンバーの一人も参加している市民グループ「旧広島陸軍被服支廠倉庫の保存・活用キャンペーン」は、インターネット上で4万4千人余（8月末現在）の署名を集めている。更に8月4日以降、ビデオ会議システムを使って建物の外観や歴史などを解説し、参加者同士で建物の活用策などを議論するオンラインイベントを数回実施。

○自民党の被爆者救済と核兵器廃絶推進議員連盟（会長：河村建夫元官房長官）のメンバーは7月31日に湯崎広島県知事に会い、全4棟のうち相当数を残すように要請。8月6日には加藤厚労相が被服支廠を視察し、「県の検討を踏まえて協力する」と表明。

○「原爆・反戦詩を朗読する市民のつどい」が8月15日、被服支廠で開催され、峠三吉の「倉庫の記録」や栗原貞子の「ヒロシマというとき」などを朗読。主催は市民団体「広島文学資料保全の会」で2002年から毎年終戦記念日に朗読会を開き、今年初めて被服支廠を舞台にした。

○9月4日、広島県から建物強度の再調査を行い、保存費用の大幅な削減の可能性を示唆。有識者会議を設け、保存方法、被爆建物としての価値、文化財指定の可能性などについて年内に提言を受け、年度内に結論を出す予定。そのための必要な費用を補正予算として9月県議会に提出。

② 第6回 響け！2代目平和の鐘祈念式（実施報告）

- ◆ 日 時：令和2年8月6日（木）9：30～10：00
- ◆ 場 所：中央公園（ハノーバー庭園南広場）
- ◆ 主 催：響け！平和の鐘 実行委員会

第6回目となる今年の祈念式はコロナ禍のなか、感染の拡大防止のため実行委員会メンバーが主体となり大幅に簡素化して実施。

実行委員会代表が参加できなかったため「被爆者の魂の響きが二度と途切れないよう頑張りましょう」というあいさつ文を代読。発起人の船越聖示氏が「この鐘こそが浜井信三元市長の魂がこもった平和の鐘であり、大事に継承していきたい」とあいさつ。その後、実行委員会メンバー及び参加者により順次点打し、来年の祈念式を約束して解散。

ひろしまはなのわ2020が開園中で、これまでとは環境が様変わりしたが、蝉しぐれのシャワーを浴びながら、例年になく力強い鐘の音が響き、初心に戻れた気がした。



松波静香氏撮影

○ 広島市中央公園を考える⑩

現状を踏まえた広島中央公園構想案 —被爆100年後の広島平和記念都市のコアづくり—

建築士 瀧口信二

I. はじめに

過去に丹下健三氏の広島平和都市建設構想案を始め、中央公園に対して多くの案が提案されている。その中で、丹下氏の「平和記念公園と中央公園を都市のコアとして位置づけ、過去を振り返る場であると共に、未来の『平和を創り出す工場』にしたい」というコンセプトに共感する。

丹下氏は戦後の廃墟の中から構想を描いたが、今やいろいろな物が建ち、周りからの多くの制約の上で検討しなければいけない。またポスト・コロナを見据えた社会を前提として考える必要がある。そこで私は現状を踏まえ、可能なかぎり既存の施設を活用しながら、緑豊かな中央公園の将来像を提案することとする。

II. 現状の課題

現状の中央公園及びその周辺の問題点は、すでに多くの人が指摘している通りであるが、とりあえず次の5点に絞る。

- ① 東西の二本の幹線道路で分断され、西側の基町環境護岸との連携も不十分で各ゾーンがバラバラである。⇒道路による分断は立体交差で連結し、護岸の土手の道からのア

クセスを改善する

- ② 平和記念公園及び原爆ドーム周辺と対峙した中央公園として、まとまりのあるコンセプトがない。⇒中央公園の都市公園としての役割を明確にする
- ③ 旧球場跡地、ファミリープール、芝生・自由広場など、年間を通して有効に活用されていない。⇒公園全体の企画運営に民間のノウハウを導入する
- ④ サッカー場の建設をどうする？⇒芝生・自由広場に建設する今の計画には無理がある
- ⑤ 基町県営住宅跡地と市営中層及び高層アパートをどうする？⇒時代のニーズに合わせて柔軟に対応し、耐用年数が来た段階で可能な限り公園に戻す

III. ビジョン

平和記念公園には被爆者への追悼・慰霊と被爆の実相を伝える場としての目的が明確にある。原爆ドームは人類史上最初の被爆の惨禍を伝える歴史の証人として、核兵器廃絶と恒久平和を求める誓いのシンボルとして世界遺産に登録された。

それらに対峙する中央公園は、平和記念都市ひろしまの未来を切り開くために、**平和を発信する国際交流の場、平和を実感できる文化・スポーツ・遊び・休息の場、復興の歴史を学び未来への展望**が持てる場を提供する。

IV. 具体的な提案

1. 既存施設の活用

- ・高層アパートの北側の一部は保存し、学生寮、宿泊施設、貸事務所、店舗などに活用する。その他のアパートも順次用途変更し、経年による劣化が進めば、解体し公園に戻す。
- ・高層アパートが用途変更されれば、基町小学校は廃校となるので、建物などを模様替えて、既存のこども科学館やファミリープールなどに変わる子供ゾーンに再生させる。
- ・商工会議所ビルは5階以上を解体・減築し、B1階は地下広場にして原爆ドーム側に連結、1階は休憩所・売店・喫茶など市民に開放、2～4階は管理事務所などに活用する。

2. Aゾーン（国際交流ひろば）

原爆ドームに対峙する旧球場跡地エリアは世界に開かれた交流の場とし、東側にステージ等の付帯設備を設け、北側に
a 棟—メディア館（市図書館＋情報発信）
b 棟—イベント館（多目的ホールなど）
c 棟—広島伝統文化伝承館を配置。

西側は環境護岸に開けている。

3. Bゾーン（市民の文化・スポーツ施設群）

ファミリープールを移転させ、跡地に音楽堂を整備。市民向けの文化・芸術・スポーツ施設が集まり、文化などを味わい楽しむエリア。

4. Cゾーン（芝生・自由広場）

市民向けの多目的オープンスペースとし、基本的に現状を維持。西側に野外ステージを新設。

5. Dゾーン（主に未来に開かれた若い人向けの施設群）

小学校跡地は子供向け施設に模様替え。隣接して未来館を整備し、復興の歴史を学び、未来を想像する場を提供する。

サッカー場は環境護岸に開かれ、緑のオープンスペースに囲まれた中に配置。多目的で多機能ではなく、スポーツを優先。

北側に残された高層アパートは学生向けの1棟と一般向けの宿泊施設・店舗など1棟として保存活用。



被爆 100 年後の中央公園構想案配置図

V. まとめ

サッカー場を芝生・自由広場の西側に建設する市の計画は、都心の公園で便利な半面、ゆとりのない敷地に多目的で多機能なスタジアムを造ることは、お互いが干渉し合うことになり、選手にとってもファンにとっても公園を利用する市民にとっても不満が残るであろう。

この場所に計画することは設計の与条件と敷地・環境の条件が合わず、誰の目から見ても不具合なのに、なぜ専門家は異議を唱えないのか不思議である。トップの決定を覆すのは困難を伴うが、理にかなわなければ、説得すべきであろう。丁度コロナ問題に直面し、これまでの規模計画も収支計画も見直さざるを得ず、再検討の最後のチャンスである。

今回、サッカー場の次善策として私案を提示したが、基町高層アパートエリアを含めた中央公園全体の将来像をしっかりと描いておかなければならない。

ポスト・コロナは3密（密閉・密接・密集）を乗り越えたゆとりのある空間が求められ、都市公園はその最たる場所でなければならない。中央公園は平和記念公園とつながる都心のコアだからこそ、海外からの観光客を含めて幅広い市民に有効に利用してもらえ環境を整えなければならない。

□ ほっとコーナー

歩く街、横川

染織作家 片島 蘭

私有地の小道にある古本屋さん、暑い日はアイスクリームが乗っているコーヒーフロートを飲んで、ギリシャ神話の本を買って帰る。フルーツ屋さんで桃を買ひ、映画館で外国の映画を見る。「おかえり」と言ってくれるお酒屋さんで、広島の地酒を空になった水筒にテイクアウト。朝8時から夜8時まで、街を見守っているタバコ屋さんは、今日も誰かに夢を売る。

朝一に広電の花壇に現れるおじさんは、駅前広場の掃除と水やりを毎日するボランティア。東京オリンピックから毎日焼き続けているおばあちゃんは、お好み焼きを頼張る私の横で、女子高生の時に被爆した話をする生き証人。一人一人に毎日物語があって、ゆっくり交差していく街。深夜まで鳴り響くサラリーマンの音痴な歌声、お姉さんたちの合の手、酔っ払いたちの心から叫ぶ声は、コロナ渦で少し静かになりつつある。ずっと工事していた高架下が終わり、ガラス張りの現代的な道へ変身した北側は、半分まだお店が埋まっていない。

車でさっと通りすぎるとわからない、歩くスピードで見えてくる、この街の日常。この場所で、商売をしている人々は一国一城の主人でありアーティストだ。

商店街事務局で行われる会議は、奇想天外な発言でも、否定もバカにもせず、それを膨らませて、現実できる形にしていく。年も男女も関係なく、それぞれの専門で出来るちょっとしたパワーと相互協力でイベントをしている。

景気や社会の大きな波にぶつかり、乗り越えながら、毎日まちをつくっている。子供達はそんな本気で遊ぶ大人たちを見ていて、大人になったらきっと真似をするのだろう。今の大人がそうであったように。



私はこんな街にアトリエを構え、染織・アートプロジェクト・デザインを仕事にしている。なぜ、そんなお金にならないことをするのか不思議がられるが、2011年に後ろから車に追突される原付バイクの事故にあって以来、20分後に死ぬこともあるのだと実感して、毎日好きなこととして生きたほうが、後悔なく終われると思っているからだ。ちょうど地震や津波があった年で、死が間近に感じられ、頭のネジが一つ外れたのだろう。

大学卒業後も制作を続けたいと思っていた2015年、同じ大学の先輩に声をかけられ、横川創荘というシェアアトリエを借りることになった。それが横川とつながる最初のきっかけである。現在では、この街に住み、個人アトリエを構え、商店街の人々たちと一緒に活動をしている。10月1日～31日は「横川商店街劇場2020」のアートプロジェクトを行う。ぜひ足を運んで頂きたい。

○「時代を語り建築を語る会（第28回）」報告

語り人：船越聖示氏（登山家）

～富士山は友だち一山の魅力を語る～

90歳にして極楽寺（標高661m）に3,400回、富士山に14回も登頂した登山家の味わい深い話を聞くことができた。

主催：時代を語り建築を語る会実行委員会（代表：石丸紀興）

日時：2020年6月27日（土）16:30～18:15

場所：合人社ウェンディひと・まちプラザ

☆ 山登りのきっかけ

・戦後間もないころ、家の宗旨が同じ極楽寺にお参りしたいという母親の願いが叶わず、遺志を継いで山に登りお参りしたのが動機。その後も家から歩いて頻りに登山し、1日8回往復したこともある。山に登ると空気がきれいで気分が晴れる。

・教員を定年退職してから、本格的に登山に挑戦。4人の女性の山仲間がおり、日本百名山や最近の富士登山は一緒に同行。

☆ 印象に残る山々をスライドで紹介

・羅臼岳は高山植物が美しく、北海道の中では大雪山より印象深い。鳥海山は朝日で日本海に映る影鳥海が有名。那須岳は近くに御用邸があり、天皇陛下も登られるので山道が立派。白馬岳は登山を始めたところに登り、感動。剣岳は岩山で雨が降るとよく滑るので、引き返し、3回目でやっと登頂。

富士山の笠雲や赤富士は北側から見える。昨年14回目の登頂をなし、富士山高齢登拝者名簿の高齢者順位4番目を記録。

その他、鳳凰山、北穂高岳、蓼科山、九重山、阿蘇山、高千穂。

2002年に八ヶ岳で最後の日本百名山を踏破。ロッジで祝賀会を開き、仲間に祝福される。

・海外の山々、北米のカナディアンロッキー、アフリカ大陸の最高峰キリマンジャロ、南米の最高峰アコンカグア、南極ほか。

2007年には六大陸の最高峰や秘境を撮った写真集を自費出版。

☆ 山登りの注意事項

・団体ツアーなどの山登りは時間的制約があり、無理をするとケガや事故に遭うことがある。時間的なゆとりを持って登ることが大事。

・山登りの装備品は高いけど、靴や下着などいい物を身につけておいた方がよい。

・登りより下りの方が一見楽のように見えるが、下りの方が疲れが足にくるし、事故も多いので要注意。

☆ その他

・極楽寺登山千回を記念して、極楽寺仁王門の修復費用を寄付。一息つく場所として登山者に喜ばれている。

・今は極楽寺登山は週1回程度。富士山はもう無理。天声人語を毎朝1時間程度かけて書き写しているが、充実感がある。ロードをかけながら継続することは山登りに通づるものがある。

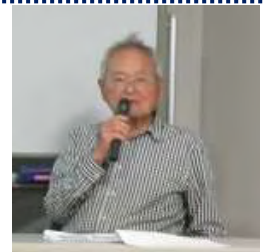
☆ 会場からの質問

・危険な目に遭ったことは？⇒一度もない。冬山は絶対行かないし、危険なところは避けて通るし、決して無理はしない。

・山登りの最中に何を考えている？⇒何も考えていない。無心になれるところがいい。

・百名山のなかで特に印象深い山は？⇒富士山。姿が美しいし、日本一の山。苦労して登った山が記憶に残る。

・百名山の選定基準は？⇒作家で登山家の深田久弥氏が執筆した「日本百名山」に紹介された山。他にも二百名山、三百名山、花の百名山などがある。



略歴：1929年ハワイ生まれ、米国オハイオ大学卒。故郷広島に帰国後、広島女学院中・高校で数学教員として勤務、ボーイスカウト日本連盟ほか多数の社会貢献活動に尽力。日本百名山の写真集「美しい日本の山」他



2002年百名山踏破

（編集委員 瀧口信二）

○ 人物登場：内藤達郎氏（旧陸軍被服支廠の保全を願う懇談会事務局長）

取材場所はリニューアルオープンした平和記念公園レストハウス 2 階の休憩室。内藤氏がピースボランティアとしてガイドしている馴染みの建物という。

☆ これまでの軌跡

広島市生まれ、3 歳の時に原爆が落ちたが、黄金山にさえぎられて被害はなく、被爆時の記憶は薄い。

定時制高校を卒業し、歯科技工士（入れ歯作り）としてラボラトリー開設。その後、県の歯科技工士会長に選任される。

規制緩和の流れの中で医療保障制度の改革が求められ、出版社から本の執筆打診があった時、必要に迫られ広島大学法学部で法務コンサルタントを学ぶ。さらに大学院社会科学部に進み、新たに医療経済学ゼミを創設してもらい、修士課程を修了。

☆ ピースボート船旅で世界一周

2008 年にピースボート船旅で 4 ヶ月かけて 24 か国を巡ったことが大きなエポックとなる。広島・長崎の被爆者 100 人が招待され、寄港した地で被爆証言などの活動を行うのが目的。同船者にサーロー節子さんや後に行動を共にする中西巖氏（旧陸軍被服支廠の保全を願う懇談会代表）と NPO 法人 HPS 国際ボランティア理事長の佐藤廣枝氏がいた。

一般乗船客も 800 人位おり、当初は被爆者と同船することを迷惑がっていたが、船内活動としてサロンで希望者に被爆の話をするうちに段々広島・長崎を学ぼうという機運になった。

☆ NPO 法人 HPS 国際ボランティア

ピースボートの経験を活かして平和活動に関わりたいと思い、佐藤氏に誘われて HPS 国際ボランティアに入会。HPS は平和記念公園の慰霊碑で毎年元旦から成人の日まで一人一輪千人献花を行ったり、公園内の碑巡りガイドをしたり、被爆体験絵本や平和学習本を出版。また個人的にはヒロシマ平和学習講師として修学旅行生や市内の小中高校生に被爆の実相などを解説。

☆ 旧陸軍被服支廠の保全を願う懇談会

ピースボートで知り合った中西氏は 15 歳の時、勤労学徒として被服支廠で勤務中に被爆。元気なうちにこの建物の保存の目途を立てたいと思い立つ。中西氏から協力要請があり、2014 年に旧陸軍被服支廠の保全を願う懇談会を設立。

被爆建物としてだけでなく戦前の軍需工場としての日常生活、被爆直後の臨時救護所、その後の運送会社の倉庫など、被服支廠の歩んだ歴史を後世に残すため講演会や見学会等を行う。

☆ 旧陸軍被服支廠に関わる最近の動向

昨年 12 月に広島県が 1 棟外観保存、2 棟解体案を公表して以来反対運動が起こる。ニュースが全国区となり、多くの人に建物の存在を認識してもらい、保全を願う懇談会も解体反対の署名活動を行い 1 万人弱の署名を集める。学生グループもウェブ署名で約 3 万人集めている。

県も各団体の解体反対の要望を踏まえ、今年度の実施を見送る。国会でも代表質問で取り上げられ、自民党の議員連盟も保存の働きかけをしている。

CNN（アメリカ）や BBC（イギリス）など海外メディアからも取材があり、加害者の立場である軍需施設の保存として注目。被害者の立場の原爆ドームと合わせて広島市の歴史ととらえている。

保存が最終目的ではなく、活用策も考えている。原爆資料館の倉庫に保管されている資料の展示館、原爆文学図書館、1 棟は現存保存、1 棟は模様替えしてホテルなどのパブリック利用等の案がある。課題は財源で地道に募金集めをし、文化財に指定されれば国からの補助も出る。

☆ これからの抱負

HPS の活動をベースに被服支廠の保存運動にも関わっていく。カメラが趣味で今年も「写真集・ヒロシマ 75 年目の証言」を自費出版。自分の守備範囲での情報発信をしていきたい。

コメント

自分の好きな道をマイペースで歩むことができる人生の達人の一人に出会えた気がした。

聞き手：編集委員 前岡智之、瀧口信二（文責）



略歴：1941 年、広島市生まれ。爆心地より 4.8km で被爆。1971 年デンタル・ラボラトリー開設。1988 年広島県歯科技工士会会長。2008 年 NPO 法人 HPS 国際ボランティア入会。2014 年旧陸軍被服支廠の保全を願う懇談会事務局長。

街角ウォッチング

「紙屋町まちかどピアノ」～広島市初の常設ストリートピアノ～

技術士 片平 靖

7月8日、地下街「紙屋町シャレオ」の東中広場に、広島市初となるストリートピアノが設置された。

ストリートピアノは、街中、街角などの公共空間に設置され、だれでも自由に演奏できるピアノのことである。「街角ピアノ」とも言われ、駅構内に設置されるのが「駅ピアノ」、空港に設置されるのは「空港ピアノ」とも呼ばれることもある。

NHKがBS1の番組「駅・空港・街角ピアノ」を放映して、全国的に知られるようになった。世界の駅や空港、街角に置かれたピアノを、通行する人が自由に弾く様子や立ち止まって聞いている人がいたり、ピアノの音とともに人々が往来する情景が映し出され、人気を博している。ストリートピアノはイギリスが発祥らしいが、日本初は2011年の鹿児島市の一番街商店街とされている。

「紙屋町まちかどピアノ」は地下街の賑わいと市民や来訪者が気軽に音楽を楽しみ、いたるところで音楽があふれる街をめざして広島市が設置した。常設された前日の7月7日には、シャレオの中央広場で記念セレモニーが開かれ、アーティストの「大瀬戸千嶋」の記念演奏や市内の大学生による演奏があった。

その後7月30日に、シャレオに立ち寄った際に、ピアノの音が聞こえてきたので、誰か弾いているのかと思い東中広場に行くと、女性の方が楽しそうにピアノを弾いていた。私にはかなり上手で弾きなれているとお見受けした。シャレオのスタッフに聞いた話によると、設置して3週間で、平日ではのべ50人、休日ではのべ100人くらい弾いており、中には毎日来られる常連さんもいるとのことだった。

ピアノの音が流れる地下街は実におしゃれ♪♪・・・

このピアノは、今年3月に閉店した「純音楽茶房ムシカ」で使われていたグランドピアノで、「ムシカ」が胡町に店を構えていた時に昭和43年から昭和58年まで使用されていたものらしい。

そして、このピアノは「ひろしまはなのわ2020」ともコラボしている。ピアノには、「はなのわ」のメインビジュアルである花のイラストが一面にデザインされている。本来、3月19日の「ひろしまはなのわ2020」オープニングイベントでピアノの除幕式を行い、シャレオ中央広場で記念セレモニーを開く予定だった。このコロナ禍で中止になり、ようやく7月7日に記念セレモニーが開かれ、東中広場に常設された。

音楽と花がコラボし、「花と緑と音楽にあふれるまち」のシンボルとしてのストリートピアノである。都心に来られる時にはシャレオ東中広場に立ち寄り、是非ピアノを弾いてみませんか？



記念セレモニー



東中広場(7/30)



広島市 HP より

第27回時代を語り建築を語る会

マイクロ・プラスチック問題を語る

—その危険性と対策の必要性・可能性—

語り人：広島大学大学院工学研究科教授 中井智司先生

日時：2019年11月22日（金）18:30～20:30

会場：広島市まちづくり市民交流プラザ研修室A

主催：語る会実行委員会（代表：石丸紀興）

後援：日本都市計画学会中国四国支部、広島県建築士会



Tech note マイクロプラスチックによる問題とは？マイクロプラスチック問題を考える1より引用

日本は世界第二位のマイクロ・プラスチックの排出国であるのに、その対策を行っていないだけでなく、問題意識がないことにより、海中生物を死に追いやり、マイクロプラスチックを海中に蓄積している。進められてこなかった現在の問題は何か、どのように解決すればいいかについて講演いただいた。

プラスチックとは、合成樹脂の中でも熱可塑性樹脂及び熱硬化性樹脂のことを指す。塑性(plasticity)を持っているという意味だ。スチレン系、ポリカ、ABS、塩化ビニルなどがある。塩化ビニルは、塩素が入っているため、燃えるとダイオキシンを発生させる。可塑性を持たせるための可塑剤が生物に有害だ。

世界では、40億トンを生産している。包装用が4割弱を占める。その他、建築用、電気・電子機器用、自動車用、繊維・おもちゃなどに使用されている。

包装用については、1970年には4万トンだったが、2015年には40万トンと10倍に増えている。リサイクルされているのは9%、焼却は12%、それ以外は埋め立てられている。

海洋ゴミの発生量は、2010年ワーストは中国、2位インドネシア、次にマレーシアだったが、2017年には中国が廃プラスチック輸入を禁止したため変わってきている。

リサイクルにはサーマルリサイクルと言ってプラスチックを燃料として熱にするものも含まれる。ペットボトルリサイクル率は40%だ。

リサイクルには、サーマルリサイクルの他にマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルの3種類がある。二酸化炭素排出量はリサイクルでも多く出る。

バーゼル条約は、国家間の有害廃棄物の移動を禁止。プラスチックも対象にする話がある。

プラスチックごみ流出量は、2010年は中国の353万トン筆頭にインドネシア・フィリピン・ベトナム・スリランカ・タイの順で20位アメリカ、日本は30位だ。

2050年には、**海洋プラスチックゴミ**の漂流の総重量が、魚の総重量より多くなるとする計算結果もある。(世界経済フォーラム(ダボス会議)2016年1月、海洋ゴミに関する報告書)

それを防ぐため、現在少しずつプラスチックからほかのものに変えている。スターバックスのストローやキットカットの包装が紙に変わってきている。

5mm以下のプラスチックを**マイクロプラスチック**と言う。

一次マイクロプラスチックは、洗顔フォームや一部の歯磨き粉に入っているマイクロビーズが代表例で回収が難しい。空気中にもマイクロプラスチックが浮遊している。人間には不可視のものも多い。

二次マイクロプラスチックは、環境中に流れたプラスチック製品が外的要因で劣化することで発生する。使用済みプラスチックがポイ捨てや輸送の過程で環境中に出てしまった後、雨などで流され海に流れ着き漂流する。1964年から2014年の50年間で20倍以上に急増しており、今後20年間でさらに倍増する見込みだ。100 μ mまでしか測定できないため、それ以下のサイズについて、どのような問題があるかは不明である。

農工大の坂口氏は、イワシとコイワシの胃の中の調査を行い、どれぐらいのサイズのマイクロプラスチックであれば体外に排出できるかについて研究している。人間についても同じことが言え、マイクロプラスチックがどれだけ体外に排出できているか研究が求められる。

日本近海のマイクロプラスチックの濃度は500mg/m³で、北太平洋の16倍、世界の27倍となっており、濃度が非常に高い。また、重量から最後に水の底に積もる。皇居の桜田濠の泥をコア貫して調べてみると、1950年は泥だったものが、2000年には、①アクリル、②ポリエチレン、③ポリスチレンなどとなっている。

マイクロプラスチックによる動物への悪影響は、①消化系でお腹に溜まるため、栄養が摂れなくなってしまう、②プラスチックについている化学物質が健康被害を引き起こすということだ。化学物質には、重金属(例えば銅)、DDTやPCBなどの有機化学物質などが考えられる。

カネミ油症事件はPCBだが、時々下水でも検出される。それがプラスチックの表面につき、魚の体内に入り、人間の体に入る。有機物質は、活性剤により親和性が高くなる。

1 μ gのマイクロプラスチックに1/100万gのPCBが付いていた。汚染物質もナノサイズのマイクロビーズの表面に着けば、細胞の中にも入っていくことが可能になる。

水環境学会マイクロプラスチック部会で研究が行われているが、物理的に化学物質の現象解析だけになるため、様々な団体が横断的に研究しなければならない。

マイクロプラスチックを出さないためには、①そもそもプラスチックを製造しない、使わない、②出したら回収する、③使うのであれば、自然界で自然に分解できるものだけを使う（ポリ乳酸など、生分解型プラスチック）という方法がある。レジ袋の有料化、使用禁止、課税なども効果的だろう。

フィンランドではペットボトルデポジット制が敷かれて、ペットボトル0.2ユーロ、カンは0.5ユーロ、容器回収機に容器を入れると、バーコードの付いたクーポンが出て、投入した容器の金額のクーポン券が戻りスーパーで割引を受けることができるシステムになっている。ゴミ箱に入っている、容器回収機に入れると金になるので、ゴミ箱から拾ってでも入れている。

コンビニも使い捨て文化だ。早稲田大学では弁当の空箱を持っていくと、新たな弁当を入れてくれる。農工大ではペットボトルは売っていない。フィリピンの地方自治体ではノープラスチックデイを設けており、意識を変える取り組みを行っている。

牡蠣の養殖の筏が壊れて海洋ゴミになり、沈む問題がある。壊れにくくするため四角から丸型にし、長寿命化を図る取組がある。また、生物分解できる材料を使うように変わった。

○地域で年ごとの回収率の解析を行う、○自動回収ロボットを使う、○環境学習の一環として、大学生や高校生に回収してもらい、○回収レンジャー制度を設ける、などプラスチックを回収するとメリットが得られるのであれば、回収率も上がるのではないかな。

個人、コミュニティ、社会、国のレベルで、それぞれの対策を取ればよいのではないかな。

最近ではUNIQLOが、レジ袋を無くし、布袋を購入して、購入した服などを持って帰るようになっ

た。2007年から2009年辺りから、生産量は減ってきている。バブルが弾けたためとリサイクル技術が上がってきたからと考えられる。

中央研究所が研究しているのは、モノ作りやデザインの中で無駄を作らないということだ。

グリーン・サステナブル・ケミストリー賞という表彰制度をつくり、自然で分解できる→利用者の満足できる性能である→店舗で売れるだけ安価である、ことについて評価している。文化と技術の意識を変えていく必要がある。

【会場からの質疑と応答】

(質問) フィンランドのペットボトルデポジットについて、マーケットのメリットはあるのか？

(回答) おそらく国の政策であり、補助金が入っていると思われる。容器回収機などの初期コストがかかるため、企業単体で行うのはなかなか難しいと考えられる。日本でやるのであれば、東京でモデルを作り、全国に普及させるやり方か。

エターナルボトルを使うのも重要だ。昔ながらのガラスのビール瓶などがそれだ。化石燃料でプラスチックを作っている、それが温暖化に繋がっていることを考える必要がある。

【語る会からの報告】

今回の語る会での結果をまとめ、その結果は「プラ・マイクロプラ8策」として環境省に提案し、「環境省プラスチックスマートフォーラム」に語る会として登録・加入した。

以下項目のみ、説明省略。

- ① プラスチック関連統計に関すること
- ② 対策推進のための国際連携に関すること
- ③ 統計類のさらに見える化、努力目標・結果の表現化
- ④ 消費税増税時の対応に際しての政策矛盾
- ⑤ 国レベルでのプラスチック問題に関する研究機関と展示施設の整備・充実に関すること、その基本としての研究成果蓄積の充実をめざすこと
- ⑥ プラスチックの生産から廃棄・回収システムの根本的見直しに関すること
- ⑦ 生活スタイルの見直し・実践に関すること
- ⑧ その他、教育研究機関に関すること

(文責：語る会実行委員会メンバー 福馬晶子)

○読者からの投稿

読者の六百田裕子氏より、サッカー場建設に伴う中央公園の自由・芝生広場の樹木伐採について憤りの投稿がありました。紙面の都合上、ブログのURL（アドレス）を紹介します。

ブログ 六の庭 NIWA 「中央公園自由・芝生広場の樹木伐採について」

https://rokuniwa.hatenablog.com/entry/2020/09/07/173536?_ga=2.230365528.551547838.1599490088-834506110.1580947095

□ 編集後記

<サッカー場の建設に総工費約 260 億円、広島市が 9 月市議会に提案>

8 月 28 日の朝の中国新聞第一面に驚かされた人は多かったのではないかな。

企業と行政のトップの間で建設計画が取り沙汰されてしばらく音沙汰がなく、また具体的なビジョンが示されることもなかったため、この話は実現しないのではないかと噂されていたなかで突然の発表であった。

当誌では、「平和記念公園と連続する都心の中央公園に年間 20 試合程度のプロサッカーの競技場を配置することが、平和を希求する広島が世界に提案する空間表現ではない」とここまで何度も指摘してきたが、建設ありきの学識経験者や関係者の検討のみに終わり、市民からの意見やその検討や議論が明確にされないままここまで来てしまった。

広島市民がどのように考えているかは、無責任に無関心をきめこんでいいのか？広島市の広報を見るとスタジアムの建設手法は、設計と施工を一括して民間に発注するデザインビルドを採用するとし、事業の概要も内容もまして具体的な運営計画も不明のまま、すでに事業者の募集・選定支援業務の担当業者選定を完了している。現在、事業内容の検討に向けて計画概要資料を希望する有資格者に配布し、意見書を受け付けている。

これからの動きに一瞬たりとも見逃さないように注視し、またその内容を市民の目に知らしめることにより活発な意見や行動が起きることを期待する。

(編集委員 前岡智之)

○お知らせ：「時代を語り建築を語る会(第29回)」開催

- ・語り人：認証 NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト代表 豊田雅子氏
- ・テーマ：ガウディハウスは何を語るか
—尾道の空き家対策と地域再生の試み—
- ・開催日：2020年9月26日(土) 15:30~17:30
- ・会場：合人社ウエンディひと・まちプラザ 研修室C(北棟5階)
(旧広島市まちづくり市民交流プラザ)
- ・会費：1000円(資料費・会場費)、学生・院生は無料
- ・参加申込：広島諸事・地域再生研究所
電話/FAX：082-223-7226 メール：nisimar5@hotmail.com
- ・主催：時代を語り建築を語る会実行委員会(代表 石丸紀興)

編集委員

石丸紀興	広島諸事・地域再生研究所主宰
高東博視	心豊かな家庭環境をつくる広島21理事
瀧口信二	広島アイデアコンペ実行委員会事務局
通谷 章	ガリバープロダクツ代表
前岡智之	中国セントラルコンサルタント代表